

## 報告 2：呉青姫（神戸大学・研究員）

### 「中国の農村地域におけるリスクシェアリングと財政支出」

農業は自然とかかわりのある産業として天候リスクに晒されやすいことに関してはしばしば指摘されてきたとおりであるが、他方でも不完全市場と不確実性経済によって常にリスクに対する事前的防止や事後的対処をせざるを得なくなっている。呉(2015)では中国農村地域におけるリスクシェアリング度が他外国と比べて高い結果を得ているが、長年間公的セーフティネットが存在しなかった中国の農村地域においてどのような公的投資や公的介入がリスクに対応に役立ってきたのかはとても興味深いことである。

中国では 2003 年から財政改革のパイロット実験が行われ、従来の「市管県」の 4 層体制から「省管県」3 層体制に、末端財政は「郷財県管（郷鎮級財政を県が管理）」の試みが見られた。2004 年から実施しはじめた農業税廃止によって財政収入が激減するようになると財政支出面における郷鎮財政負担は悪化するようになる。2006 年になって「郷財県管」の制度が全国範囲に普及するようになるが、一層貧困村や富裕村といった村の経済状況によって管理形式が異なっていた。こうした中で財政支出がどのように農家世帯の所得変動と消費の安定化を調和させてきたのかを探ることは重要な意義をもつ。

地域における潜在的リスク対応能力を測定する方法の一つが、完全リスクシェアリングに基づいたリスクシェアリング度の測定、即ちリスクに対する消費平準化機能を考察する方法であるが、本研究では、中国農村地域の相互保険に影響を与えるだろう公的要因として財政支出に焦点を当てて実証分析をする。具体的には、まずは村別に農家家計の消費が所得変動からどれだけ遮断されているのかを農村家計調査の長期パネルデータを用いて測定し、さらにリスクシェアリングに影響を与えるだろう財政支出を投資支出、消費支出、福利支出の詳細によって考察することでリスクシェアリングの実現に対する財政歳出の貢献を統計的に検証する。